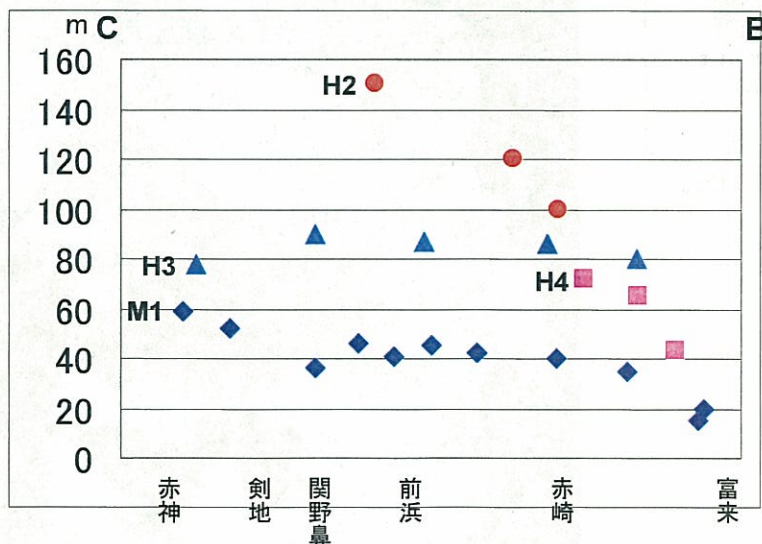
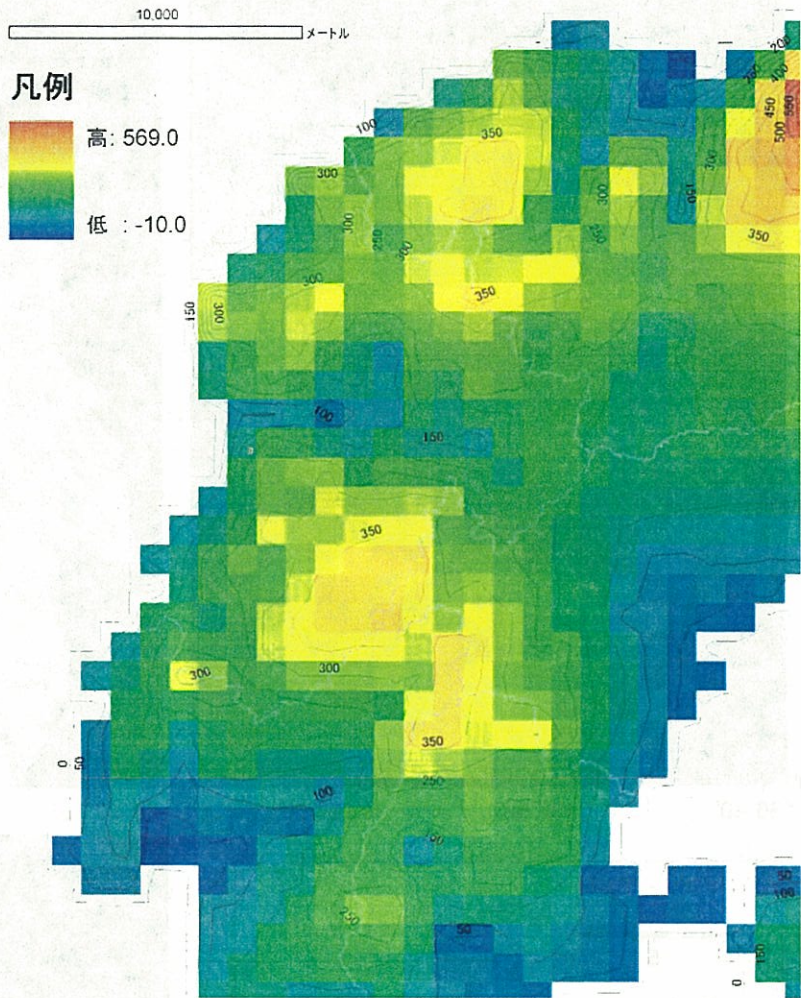


## 海成段丘の旧汀線高度と接峰面図



接峰面図(方眼法1000mメッシュ)



(太田・平川1979のアイデアに基づき  
国土地理院1997をもとに作成)

富来～門前の西海岸には海成段丘が発達する。特に連続性のよいM1面(約12万年前に形成?)の旧汀線高度は、B付近で約20m、C付近で約60mで、北に向かって高度を増しており、SARや生物痕により示された今回の地震に伴う隆起パターンと整合することから、今回の地震と同様の地殻変動が累積していると考えられる。一方、断層の東方延長を挟んだ両側の山地の高度には差が見られず、変位を累積させる断層が東方の陸上部へ延長していることは考えにくい。